

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立馬籠小学校
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
住所 〒988-0364

E-mail : magome-sho@kesenuma.ed.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 20 名 女子 12 名 合計 32 名
児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

4. 活動内容

は、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1 活動の目的

ESDとは持続可能な社会の担い手を育む教育である。本地区は歴史的・地域遺産に恵まれ、地域人材も豊富なことから、平成24年度に、ユネスコの研究助成をいただき、夏休みに3年生から6年生までの児童を対象とした「馬籠歴史探検隊」を実施した。この活動を通して、児童は日頃から住み慣れた故郷には歴史的に価値のある遺構が存在することを知り、地域探求の思いが高まった。

また、故郷のよさを他の地域に広く発信したり、未来に向けて伝承したりしようとする姿勢も育ってきた。今年度も3年生から6年生の児童を対象とし、活動場所を岩手県平泉に移して、馬籠とのつながりを探検する活動「馬籠歴史探検隊Ⅱ」を企画した。

本馬籠地区は、田東山山麓に広がる緑豊かな自然に囲まれた小さな山村である。また、古来内陸から沿岸に通じる街道の峠に位置する交通の要所であり、岩手県平泉の奥州藤原氏が深く崇敬した田東山に通じる「表玄関」としてその役割を果たしてきた重要な地域でもある。24年度の活動からも、「馬籠の産金」と世界遺産である「平泉の黄金文化」との関係が、新たな研究の視点として明らかになった。ロマン溢れるその視点は、児童にとっても大変興味深いものである。

以上のことから、次代を担う小学生に、地域の歴史と文化を振り返りながら、馬籠と平泉や藤原氏との接点を垣間見ること、一層地域に誇りを持ち、未来に向けた新しい地域づくりのビジョンを抱くことを期待するとともに、地域人材を活用し、この取組を地域に伝えることで、馬籠地域の活性化にも寄与できることから、前年度から継続した発展的な活動として、本プロジェクトを企画したものである。

2 指導者の選定

地域学習には、地域理解の深い指導者の存在が不可欠である。

本吉町地域活性化振興事業（平成22年度からは気仙沼市事業）の助成を得て、「馬籠風土研究会」が結成された。同研究会では、馬籠地域の地名や屋号、風俗習慣や方言、産金や製鉄、その他の歴史、産業等多岐にわたる分野を調査研究し、その成果を「馬籠風土記」にまとめている。会員は大江武夫会長をはじめとする7名であるが、平成24年度に本事業を開始する段階から、地域理解の指導者として企画や、ガイド役としての現地への同行、関係各所との連絡調整など、様々な面でご協力をいただいた。

今回も、活動場所が遠方であるにもかかわらず、児童の見学活動に同行いただき、専門的な視点からお話をいただくなど、児童の興味・関心を喚起し、理解を深める上で大きな援助をいただいた。

3 活動の概要

(1) 事前打合せ

- ・参加者：大江会長、校長、教頭、教務主任（ESD担当）
- ・打合せ内容：活動内容の確認、学習コースの選定、事前指導の持ち方、時間配分等

(2) 事前指導

・日時：7月18日(木)第2校時(午前9:35～10:20)

・内容

① 馬籠風土研究会員と児童の顔合わせ

② 平泉見学の日程の確認(E S D担当)

③ 馬籠と平泉のかかわりや見学場所などの説明

(馬籠風土研究会 大江武夫会長, 佐藤一郎氏)

(3) 「馬籠歴史探検隊Ⅱ」当日の概要

① 日時：平成25年7月22日(月)午前8:00～午後3:45

② 参加人数

馬籠小学校児童3～6年生	24名
馬籠小学校教職員	9名
馬籠風土研究会員	2名
総計	35名

③ 移動方法

貸し切り(大型)バス

(4) 日程

① 学校集合 午前8:00

② 開会行事・説明等 午前8:00～8:20

③ バス乗車 午前8:30

※ バス内では,馬籠風土研究会の方から,見学前の講話をいただいた。

④ 平泉到着 午前10:00

〈見学コース〉

・中尊寺金色堂

・讚衡蔵

※ 中尊寺内では,地元のガイドによって上記以外の建物などの説明も受けた。

・平泉文化史館

・毛越寺

⑤ 平泉発 午後2:05

※ バス内では児童の感想発表が行われた。

⑥ 学校着・閉会行事・解散 午後3:30～3:45

(5) 主な見学先と活動の様子



中尊寺金色堂

奥州藤原氏初代藤原清衡公が天治元年（1124年）に建立したもの。写真の覆堂内部には、総金箔貼りの金色堂がある。児童はその輝きに心奪われ、「馬籠の金」との関連を思い、時が経つのも忘れ熱心にメモを取っていた。



讚衡蔵

中尊寺内唯一の資料館である。内部には奥州藤原氏の遺宝や仏像をはじめとする国宝や重要文化財の「お宝」が 3000 点余り収容されている。その迫力に見童は圧倒されながらも、真剣に見入っていた。



毛越寺

開山は慈覚大師と言われる天台宗の寺院。広大な敷地には特別名勝の庭園や国の特別史跡に指定された境内がある。小雨降る中、児童は悠久の時の流れに浸りながら、平安の時代に思いをはせていた。

4 児童の感想から（抜粋）

◇ 3年児童

- ・金色どうをはじめて見てキラキラしていてびっくりしました。またいきたいです。
- ・次に中尊寺に行く時は馬籠歴史探検隊で学んだ事をいかしながら見たいです。
- ・金ばくが金色堂の全部をおおっていたのがすごかったです。初めて見ることできて、本当によかったです。また、行ってみたいです。

◇ 4年児童

- ・金のことや藤原氏のことなど昔のことが分かってよかったです。
- ・阿弥陀如来は見ただけで、すごいはく力があると感じられました。
- ・5年生になったら、平泉いがいのところについても調べてみたいです。
- ・中尊寺で馬籠の金が使われていたので、馬籠はすごい所なんだと思いました。

◇ 5年生

- ・馬籠と関係の深い平泉に行きわくわくしました。印象に残ったのは毛越寺です。
- ・馬籠歴史探検隊の学習から、馬籠には自然や歴史などすばらしいところがたくさんあるということが分かりました。
- ・平泉にまで金が運ばれていたのか・・・馬籠のいいところが分かりました。
- ・豊かな馬籠の自然に力を入れ、馬籠の木をブランド化し、博物館も造って馬籠の木を多くの人に知ってもらいたい。

◇ 6年生

- ・馬籠風土研究会の方から、心に残った金色堂に馬籠の金が使われていると教えてもらったときはうれしかったです。平泉との関係が分かるような馬籠の歴史マップを作り、平泉に置くことで、馬籠に興味を持ってもらい、これを機会に平泉の人と仲良くなれば良いと思いました。
- ・馬籠でとれていた金が世界遺産の中尊寺で使われていた事を知り、馬籠も世界遺産になったみたいでうれしかったです。私は馬籠が昔のように活性化するために、パンフレットやホームページ等で、世界の人たちに知ってもらいたいです。

5 成果と課題

- 見学先の平泉には、助成金を活用し大型バスを利用できた事で移動が可能になった。
- 地域人材の活用にあたって、助成金を交通費等に活用することができた。また、2年間にわたる本事業の実践を冊子（添付冊子参照）としてまとめ、刊行することもできた。学校予算では活用できるような枠がないため、非常に助かった。
- 中学年児童にとっては、地域と平泉の歴史の深さに驚きと興味を抱く機会となった。高学年児童には、改めて故郷の良さを感じ、将来に向け地域の活性化の視点を提言することもできた。また教職員にとっては地域・歴史学習に関する研修となった。
- 地域人材の活用やまとめの冊子を作成し、地区内全戸に配付したことで、本校教育活動への理解が深まり、地域の活性化にもつながった。
- ▲今年度は前年度の取組をベースとして活動を展開し、内容的な発展、充実が認められたが、次年度は馬籠に残る産金跡を探ることで、本研究を一層深めていく。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。※公表しません

- 紙媒体の参考資料（新聞、出版物など）
- CD-ROM
- 写真
- その他（）